



# 大会概要

1. 日時 08 JUN 2015—14 JUN 2015
2. 場所 Weymouth & Portland
3. 艇種

## パラリンピック種目

- 2. 4meter 7艇 6R
- SKUD 4艇 6R
- Sonar 6艇 6R

## オリンピック種目

- 470Men 37艇 8R+MR
- 470Women 27艇 7R+MR

▪ 49er	37 艇	10 + MR
▪ 49FX	28 艇	10 + MR
▪ Fin	24 艇	7 + MR
▪ Laser Men	38 艇	7 + MR
▪ Laser Radial	36 艇	7 + MR
▪ Nacra17	31 艇	10 + MR
▪ RS:X Men	17 艇	10 + MR
▪ RS:X Women	18 艇	9 + MR

## Open

▪ Kite Boards	12 艇	12 Round Robin
---------------	------	----------------

## 4.賞 各クラス

優勝 3,000€

2位 2,000€

3位 1,000€



## 5. エリア(6海面)

- A 2.4metre SKUD18 Sonar(パラリンピック)
- B RS:X Men Women
- C 49er / 49FX
- D 470 Men Women
- E Laser / LaserRadial
- F Nacra17 / Fin



# レース運営について

今回、私は470クラスのスタートPINボートに乗りました。前日にチーム毎のミーティングがあり、各自簡単な自己紹介の後、SIの確認、マーク設置手順の確認事項を約1時間行いました。Course Race OfficerのDavidが説明をして、補足をMentorとIROが行う形でした。特にRRS26の変更箇所について細かく説明があり、私はSIと、持参したルールブックを照らし合わせるので精一杯でした。その後、運営機材を各ボート毎に準備して海上に出てマーク設置、コース変更に伴うオペレーション、フィニッシュ対応を一通り確認して帰港しました。帰港後のミーティングは本部船に集合して、課題や細かい指示がありました。

今大会ではSIでRRS26(スタート手順)が変更されました。この方式は昨年12月のWORLD CUP最終戦と今回が2回目ということで今後のISAF大会にも適用される方向性でした。選手・メディアに対して、スタートまで後、何分か？が分かり易いこととゼネラルリコールの軽減、ONタイムでレース進行をする目的だと捉えています。

# 変更されたスタート手順と運営メンバー

ISAF SAILING WORLD CUP Starting Procedure				
Overall Time	Signal	Sound Signal	Flags	Summary
8	Orange Flag	Sound Signal	Raise Orange	
5	WARNING Number 5 or Black Number 5	Sound Signal	Raise Number 5	
3	PREPARATORY Number 3	Sound Signal	Lower Number 5 Raise Number 3	 
2	Number 2	Sound Signal	Lower Number 3 Raise Number 2	 
1	Number 1	Long Sound Signal	Lower Number 2 Raise Number 1	 
0	Green Flag	Sound Signal	Lower Number 1 Raise Green	 
-1	Orange only removed with Green if only 1 class on course		Lower Green Lower Orange	 

ISAF Sailing World Cup 2015, WPNSA									
COURSE TEAM:		BLACK	COURSE AREA		RADIO CHANNEL:				
MARK TYPE:					DELTA				
BOATS ENTERED:		470 Men							
		470 Women							
TOTAL			0						
Callign	Flag No.	Role	Name	Boat Name	Accom	Location	Check In	Check	
Black Committee		Course Race Officer	David Kent	Sorebones	RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun	
		International Race Officer	Nino Shmueli		RYA	Aqua Hotel	08-Jun	15-Jun	
	1	Mentor	Adrian Stogall		Local				
		DRO	Tom Rusbridge		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun	
		Spotter/Recorder	Catherine Jacobs		Local				
		Signals	Peter Jacobs		Local				
Black Pin		ARO	Chris Nichol	RYA Protector (P19)	RYA	Ocean View	08-Jun	14-Jun	
	2	Spotter/Recorder	David McCrae		RYA	Ocean View	08-Jun	14-Jun	
		Spotter/Recorder	Katsumi Okamura (JPN)		RYA	Ocean View	08-Jun	14-Jun	
		Spotter/Recorder	Jenny Pipe		RYA	Ocean View	09-Jun	13-Jun	
Black Finish		ARO	Henry Wright	Thais	Camper	WPNSA	09-Jun	13-Jun	
	3	ARO	Chris Freer		Local				
		Spotter/Recorder	Iain Arlie		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun	
		Spotter/Recorder	John Edmonds	Yacht	Thais		09-Jun	13-Jun	
		Boat Driver	Nigel Wrigley	Yacht	Thais		09-Jun	13-Jun	
Marks 1		Senior Mark Layer	Andrew Millington	Dugdale RIB	Camper	WPNSA	09-Jun	13-Jun	
	4	Senior Mark Layer	Andy Foskett (Wed)						
		Senior Mark Assistant	Steve Dawson						
Marks 3		Mark Layer	Martyn Clark	RYA Rib 54	Local				
	5	Mark Layer Assistant	Gilly Foulds		Local				
Marks 4		Mark Layer	Tom Thurlow	RYA Rib 73	Local				
	6	Mark Layer Assistant	Stuart White		RYA	Ocean View	06-Jun	14-Jun	
Course Safety Leader		CSL Helm	Cam Hughes	Port Tack Charter 11	RYA	Ocean View	06-Jun	14-Jun	
	7	CSL Crew	Richard J Price		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun	
Safety 2		Safety Helm	David Pipe		RYA	Ocean View	09-Jun	13-Jun	
	8	Safety Crew	Martin Pearson	Parkstone Rib	RYA	Ocean View	09-Jun	13-Jun	
					RYA	Ocean View	09-Jun	13-Jun	

# レース初日

8時45分より本部船で朝のミーティング。9時15分出港、レース・エリアまでは3.5nm(約6.5km)あり運営艇でも30分程度、かかりました。

本部船は想定位置で直ぐに固定しました。マークボートは細めに風向・風速のチェックを行い、本船からの指示(GPSポイント、距離、角度)によりマークを設置。午前中に男子、午後に女子のレースなのでコースはLR-2を使用しました。水深17m。風向60° 風速10~12ノット、距離1.0nm。PINボートのラインの長さは指示通り280~300mで設置。アンカーラインは調整出来るよう40mで固定しました。

風向・風速が安定していたため、2Rを淡々と消化しました。女子2Rについても風向70°で安定していたため消化。準備信号がU旗もしくは黒色旗ということでラインの監視補助や記録のサポートを行いました。

# レース2日目

朝は本部船でのミーティング後に出港。風向風速は昨日同様、風向70～80° 風速8～12ノット。距離1.0nm。2日目は午前中に女子、午後男子というスケジュールでした。風の強弱があったものの2Rを消化。ラインの長さは250mで初日同様、左海面が有利でしたがスタートラインは上有利で設置しました。

女子2R目では風速の低下に伴いターゲット・タイムを考慮して2上を短くしました。通常、変更マークは形状や色を変えると認識していましたが、元のマークを移動するという方法でレグ長が十分あるため問題ない状況でした。

午後になるに連れて風軸が右にシフトしていった為、男子4R目は本部船が移動して風向100° 風速13～16ノットでスタート。レース間のインターバルも最終艇フィニッシュ後15分前後でオレンジ色旗を掲揚して次レースに備えるという非常にスムーズなハンドリングでした。

# レース3日目

朝から曇天で風の弱い中、出港。エリアに着いた時は10ノット前後の風が吹いていましたが男子5Rスタート時には6ノット以下まで低下。クラス旗掲揚以前にO旗を掲揚していましたが、そのままスタートさせました。選手はO旗が掲揚されているのでロッキングを繰り返す状況でした。1マークでR旗とC旗ーが掲揚され2P2Sマークの距離が短くされました。風は更に弱くなり2マークを回航する時には3ノット以下でした。風向変化も伴い2マークでC旗とー表示され2上を更に短くしました。ISAFのレースではコース短縮はないのは知っていましたが、場所によっては風がなく選手もスピナーカーを降ろしていた状況も見受けられました。

当初0.8nmで設置。2上は0.5nmまで距離を短くし、最終的にフルコースで帆走させました。日本では大量のDNFが発生する状況でしたが選手のレベルが高いのか、全艇フィニッシュ出来ました。風速の低下はRRS32.1に該当しないのは重々承知でしたが風向が40° 変化していたため中止の選択もあったのではないかと疑問を抱きました。他の海面ではスタートして風向変化により中止になっているクラスや全くスタートの気配すらないエリアもありました。エリアにより状況が違うのは当然ですが、私的には公正・公平ではないと判断しました。レースが終わり無風となりましたが本船にAP旗が掲揚され選手は長時間に渡り海上待機。14:00前にAP/A旗が掲揚され男子はレースが終了しました。陸上では女子のAP旗が降下され出艇し、他のエリアも同様に次々と曳航されて各エリアに選手が到着。海上は風向風速が測定できない状況でしたがAP旗で海上待機しました。

最終的に16:00前にAP/A旗が全てのエリアで掲揚され風に恵まれない一日となり、結局レースを行ったのは男子470の1Rのみとなりました。陸上に戻り、本部船でのミーティングで『レースの実施判断に間違いはなかった』というような事を言われ、こうした状況が起こり得ると再認識させられました。

# レース4日目

夜中に前線が通過し、風向が西風に変わりました。3日目にレースが出来なかったためコースをLR-2からトラペ・ゾイドコース(O2 I2)に変更。NOTICEでレース数、スタート時間が変更されたので男女470が一同に海面に集結しました。風向270° 風速15~20ノット。距離は1.1nm。今大会、一番良いコンディションの中レースが開始。PINボートは男子は300mで設置しました。男子スタート後、女子のクラス旗掲揚までの5分間に250mで新たに設置と忙しい状況でした。その日の2R目(男子7R女子6R)からは風向250° にコース設定を変更して進行しました。予選最終日ということもありU旗の時はゼネラル・リーコールとなるが、黒色旗が掲揚されると選手もリスク回避してスムーズなスタートとなる傾向でした。風に恵まれ淡々と男女とも3Rを消化しました。

今回マークボート艇は2隻(1艇2名)でマーク・レイヤーの資格保持者が担当していました。風に関する情報発信、マーク設置に関しては高いスキルがあり、特にゲートマーク設置は距離、バイアス等が適切で、PINボートよりゲートマーク回航をみているとセパレートしているのが分かりました。設置方法は2Pマークを設置後、2Sマークを設置しますが、通常アンカー及びラインを流して最後にマークを投下する手法で微調整を行いました。ゲートを、風向に直角に合わせるという設置方法ですが、彼らはマークを先に想定位置に浮かべ、ラインにテンションをかけながら風上にボートを走らせ最後にアンカーを落とすという設置方法をしていました。水深が20m前後という事とマークレイヤー自身がヨットレースを熟知しているということ、更に2012年にロンドン五輪を経験しているのが随所に伺え本部船もマークボートに絶対の信頼関係を置いているのが傍から見ていてもわかりました。

# メダル・レース

最終日には各クラスメダルレースが行われました。2海面用意され次々とレースが開始されました。レース運営は49er/FXチームを中心にメンバーが組み、担当クラスになるとIRO が本部船に乗り込むという形式でした。

私は陸上で大型スクリーンでの観戦をしました。クラスによってはBBCのTV放映があり、またYouTubeでレース模様を配信したり予選シリーズからのトラッキングシステムはかなり高精度な物でした。



# その他

運営備品はコンテナより貸出



マークボート



カフェテラス



ミーティング風景



本部船



スタートシーン



# まとめ

今大会を通して国際大会の規模の大きさ、ISAFレギュレーションを身を持って経験・体感することが出来ました。私自身英語が話せるレベルではありませんが、2020東京オリンピックやそれまでに開催される国際大会に向けて、英語力の習得が急務であると改めて痛感しました。海上運営に関してはある程度、予測であったり展開を読むことも必要ではありますが、コミュニケーション能力がやはり大事です。また、渡航中にセーリング競技開催地が江の島ヨットハーバーに決定したとのニュースを知りました。これから2020年に向けて今出来る事、これからすることをしっかり見据えていきたいと思えます。

今回ボランティアスタッフとして参加できたのも、鍵富さんによる事前のRYAとの交渉、人脈構築のお蔭でありました。ISAF登録をはじめ、いろいろとサポート頂いた磯部さんにも御礼申し上げます。

この貴重な経験をする機会を与えて頂きましたこと皆様に感謝申し上げます。